表紙写真（上から）：
タヌキ
ナミルリモンハナバチ
サギソウ、トノサマガエル
望海浜の風景
ゴクラクハゼ、シロチドリ
裏表紙写真：
ハッチョウトンボ

明石市の大切にしたい生きもの ～明石市レッドリスト～ ガイドブック
2022 年（令和４年）４月
編集発行 / 明石市 環境産業局 環境室 環境創造課
兵庫県明石市中崎１丁目５番１号
電話：078-918-5786　FAX：078-918-**5192**

SDGs 未来安心都市・明石
～いつまでも すべての人に
やさしいまちを みんなで～

明石市の大切にしたい生きもの

～明石市レッドリスト～

ガイドブック

はじめに

明石市には、おだやかな瀬戸内海を臨む美しい海岸線をはじめ、ため池群や田園地帯、里山林など豊かな自然が残されており、多様な生物が生息・生育する場となっています。しかしながら、これまで田んぼや水路、ため池などでふつうに見られていたトノサマガエルやミナミメダカなどは、宅地整備や農薬の使用などにより生息に適した環境が少なくなり、目にする機会が減ってきています。

このような状況のなかで、明石市では、2011 年に「生物多様性あかし戦略」を定め、「いろいろな生きものが生息・生育するまち“あかし”」を目指し、生物多様性を守る取り組みを進めています。2019 年 3 月には、「明石市の大切にしたい生きもの～明石市レッドリスト～」を作成し、277 種の生きものを選定しました。

このレッドリストガイドブックには、レッドリストに選定した 277 種の貴重な野生生物の情報を掲載しています。明石市ではどのような生きものが減ってきているのか、また多くの人がくらす都会でありながら、意外と多くの生きものたちが身近にいること、そんな生きものたちが生きる自然について、ぜひ皆様に知っていただければと思います。

そして、この大切にしたい生きものや自然を将来世代に引き継ぐため、多くの方が身の回りの自然に目を向け、環境への負担の少ない生活へと見直していただくなど「人にも自然にも地球にもやさしいまち・あかし」を目指すきっかけになれば幸いです。

2022 年（令和 4 年）3 月 明石市

目 次

明石の大切にしたい生きもの ～明石市レッドリスト～ とは？ 1
明石市の環境と生きもの 1
明石市レッドリストの生きもの 5
哺乳類 5
鳥類 5
爬虫類 10
両生類 10
魚類 11
昆虫類 13
植物 20

明石市レッドリストと SDGs

「SDGs」とは、「持続可能な開発目標」のことで、よりよい世界をつくるため、2015 年の国連サミットで決められた 17 の目標です。明石市は、2020 年 7 月 17 日に「SDGs 未来都市」に認定され、2030 年のあるべき姿として、「SDGs 未来都市・明石～いつまでも すべての人に やさしいまちをみんなで～」を掲げ、SDGs の 17 のゴールを目指しています。

「生物多様性あかし戦略」を推進するため、「明石の大切にしたい生きものリスト ～明石市レッドリスト～」をつくり、明石市の自然や生きものを守っていこうとする取り組みは、17 の目標のうち、主に「14 海の豊かさを守ろう」「15 陸の豊かさも守ろう」に貢献するものです。

写真提供

- ●エコウイングあかし：小川 雅弘、森 逸男
- ●日本蜂類同好会西日本ハチ研究会：福島 秀毅
- ●日本野鳥の会ひょうご:伊賀 文計、岩崎 健二、尾崎 由紀、尾崎 雄二
- ●兵庫県植物誌研究会：小林 禧樹
- ●兵庫県立大学・兵庫県立人と自然の博物館：黒田 有寿茂
- ●兵庫県立人と自然の博物館：八木 剛
- ●兵庫・水辺ネットワーク：大嶋 範行
- ●角野 康郎 ●大城 明夫 ●小野 由紀子 ●中村 和磨
- ●㈱地域環境計画：飯田 一令、石山 麻子、上田 達也、上村 晋平、熊走 彰記、桑田 莉奈、中島 拓、前田 武志、松井 敬子、見瀬 浩子、村島 祐希、米田 和典

※一部写真を明石市立文化博物館発行『明石の野鳥』『明石の昆虫』より転載使用。
※撮影地が明石市外である写真が含まれる。

今 ハマビシ

海岸の砂浜に生えます。根元から四方に茎を出し広がります。夏に葉のつけねに小さな黄色い花をつけ、果実は 1cm ほどで丸く、するどいとげがあります。

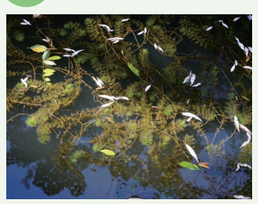
今 ミズスギナ

ため池に生える水草で、水の量にあわせて水の中の葉、水の上の葉など葉の形が変わります。8～10 月に葉のつけねに白い小さな花をつけます。

今 ウンラン

海岸の砂地に生えます。高さ 20cm ほどで、砂地をはうように生えます。葉は厚みがあり、8～10 月にうす黄色の花をつけます。

今 フサタヌキモ



ため池や湖などに生える水草で、食虫植物です。葉はやわらかくタヌキの尾に似ていることが名前の由来です。小さく黄色い花を 3～5 個つけます。

今 マルバオモダカ

ため池や水田などに生える水草です。葉を水に浮かべる場合と水から上に出す場合があります。夏には茎をのばし花びら 3 枚の白い花をつけます。

今 トチカガミ

ため池、湖、水路などで、水に浮かんでいる水草です。葉は丸く、葉の裏に浮袋があります。夏から秋に 3 枚の花びらをもつ白い花を咲かせます。

今 ミズアオイ

水田や湿地に生えます。ハート形の葉をつけ、葉より上に、夏から秋にかけて青紫色の花をたくさんつけます。コナギという田んぼの雑草によく似ています。

今 ホシクサ

高さ15cmほどで、水田や湿地に細長い葉がまとまって生えます。夏から秋に茎の先に白い小さな花をつけ、その形が星に似ていることが名前の由来のひとつです。

<お知らせ>
2019 年（平成 31 年）3 月公表の「明石市の大切にしたい生きもの ～明石市レッドリスト～」掲載の次の種について、下記のとおり変更を予定しています。本ガイドブックでは変更を反映して掲載しています（掲載種数はレッドリスト掲載どおりです）。

- ●カスミサンショウウオ
  →セトウチサンショウウオ
  （種の細分化による種名変更）
- ●ドクゼリ→削除
  （選定根拠となった明石市での確認記録が明石市外の記録であることがわかったため）

明石いきものコラム

明石のハマビシ

ハマビシは海岸の砂浜などに生える植物で、昔は播磨の海岸にも群落をつくっていました。実にとげがあり、漁師が網を干すときに引き抜いていたという話が残されています。

しかし今ではハマビシは、国や兵庫県のレッドリストで絶滅危惧種とされ、各地で絶滅が心配されています。

明石の海岸でもかつてはハマビシが生育していたことが、残された記録や標本からうかがえます。1922 年に植物学者の牧野富太郎が明石の浜でハマビシを採集した記録がありますし、1959 年に明石の海岸で採られた貴重な標本が、人と自然の博物館に残されています。しかしその後、埋め立てなどにより、兵庫県内の多くの海岸ではハマビシは見られなくなりました。

現在、県内で自生のハマビシが見られるのは淡路島の富島だけですが、明石市の藤江海岸には、海岸整備のときに種が持ちこまれたと考えられているハマビシが生育しています。これは自然に生えたものではないので、明石市レッドリストではハマビシは「今見られない」のカテゴリーに区分しています。

藤江海岸の
ハマビシ保全エリア